

2018年度入学式学長式辞

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。ご父母の皆様もお慶びのことと存じます。心よりお祝い申し上げます。

本日の入学式では、経済学部、理工学部、文学部、法学部の4つの学部と、経済経営研究科、理工学研究科、文学研究科、法学政治学研究科の4つの大学院研究科を合計して、およそ1,900名の新入生のみなさんを晴れやかな天候のもとにお迎えできたことは、誠に喜ばしいことと存じます。

まず、みなさんが入学してこられた成蹊大学の歴史について簡単にご紹介します。成蹊大学の母体である成蹊学園の歴史は、今から105年程前に創立者中村春二が池袋の地に開校した成蹊実務学校に始まります。さらにその源流には、中村春二が本郷の自宅に開いた「成蹊園」という私塾があります。「成蹊」という名前は、司馬遷の史記の中にある「桃李もの言わざれでも下おのずから蹊（こみち）を成す」という言葉に由来するもので、「何も言わなくても徳の高い人の周りには多くの人が集まり、その下に自然に蹊ができる」ということを意味しています。中村春二は、当時の国家統制による画一的な教育に反対し「個性尊重」の教育理念を掲げ、新しい教育を行うための学校を次々に設立していきました。大正の末に池袋から現在の吉祥寺の地に移転し、旧制の七年制高等学校を開校いたしました。成蹊大学は、成蹊学園の建学の理念と、旧制高校のリベラルで誇り高い学風を受け継ぎ、1949年に新制大学として政治経済学部一学部のみで誕生しました。その後学部や大学院を増設し、現在では総合大学としての形態を整えるまでに発展を遂げてまいりました。

さて、いま入学してこられた皆さんは、これから成蹊大学でどのように過ごしていけばよいのでしょうか。それを考えるために、まず、みなさんが数年後に出ていく社会とはどのようなものなのかを想像してみましょう。

これから皆さんが足を踏み入れていく社会はどのようなもののでしょうか。一言で言うと、「何が起きるかわからない」「何が起きてもおかしくない」不確実な社会だと言えます。社会は非常なスピードで変化しています。例えば、今からおよそ10年余り前にiPhoneが発売され、人類は始めてスマートフォンを手に入れましたが、それからわずか10年で「スマホ」は世界中を席卷し、私たちの生活の隅々にまで入り込みました。iPhoneを世界中で5000万人以上の人が使うまでに要した時間は発売からわずかに3年です。5000万台以上を売上げるのにラジオが50年、テレビが20年以上を要したと言われていたことから考えると、そのスピードが桁違いであることがわかつてと思います。今まさにIoT、ビッグデータ、人工知能、ロボット、ナノテクノロジー、バイオサイエンスなどの先端テクノロジーが相

互に融合しあいながら、社会文化のあり方を根底から変えるほどの大きな圧力となって押し寄せてきているという感じがしています。人工知能やロボットは将来の日本国内の49パーセントの職業を奪い取るという予測さえ存在するほどです。

このような変化の激しい時代をどう生きていけばよいのでしょうか。何か準備できることはあるのでしょうか。

「人生は所詮は偶然の連鎖だ」と思っている人いませんか？ 運がよくないと幸福にはなれない、準備をしてもたいして役に立たないと思っている人いませんか？ たしかに人生は偶然の出来事と偶然の出会いの連続で構成されています。それでは、偶然の出来事によって成長できる人とそうでない人がいるのはなぜでしょうか？ また、ラッキーなことがよく起きる人はたまたま幸運な人なののでしょうか？

ここでみなさんに、アメリカの心理学者ジョン・クランボルツという人によって提唱された「計画された偶発性の理論」と呼ばれる考え方をご紹介します。この考え方はその後のキャリア教育のあり方に大きな影響を及ぼしたといわれている理論です。

人間のキャリアのおよそ80%は、偶然の出会いと偶然の出来事によって占められています。言い換えると、事前に計画された通りにいくものは20%程度ということになります。偶然の出会いや出来事が個人の成長（キャリアアップ）につながるためには二つの要素が必要です。一つ目はその出会いや出来事が実際に「起きること」であり、二つ目はその人がその出会いや出来事を自分自身の「成長につなげられること」の二つです。前者を支配しているのはその出会いや出来事の発生確率であり、後者をもたらすのはその人の受容性です。

一つ例を挙げてみましょう。「一生付き合えるような友人を大学で見つけてください」とよく言われたりします。「友人は偶然にできるものであり、特にそのために何か準備できることはない」と思いますか？ 例えば、たまたま授業で隣に座った人に話しかけたとします。その後話が合ってその人と親友になったとしましょう。話が合って親友になったのは偶然です。しかし、話しかけなかったら親友にはならなかったと思います。つまり声をかけるという積極的な行動が「親友になる」という出来事の発生確率を引き上げているわけです。あるいは逆に、隣の人から声を掛けられたとします。声をかけられたのはたまたまかもしれませんが、それを「うるさい、わずらわしい」と思って拒絶するか、興味ある話が聞けると思って相手を受け容れようとするかによって、その後の人生の展開がまったく変わってしまうかもしれません。偶然に起こったことを受け容れることができるかどうかは、その人の感受性や、意識の高さ、柔軟な態度などの受容性の問題であることがわかってと思います。

つまり、アンテナを高く広く張って多くの情報を吸収し、積極的に行動することによって、新しい出会いや出来事の発生する確率を高め、さらに、その出来事を自分のこととして柔軟に受け容れることによって人生は豊かになっていくという考え方が、「計画された偶発性の理論」の根幹です。クランボルツは次のように述べています。「出来事に対する自分の思いや自分の行動をコントロールすることはできるが、結果をコントロールすることは誰にもできない。しかし、望ましい結果が起こる確率を高めることはできる。人生には保証されているものは何一つない。唯一確かなことは、何もしないでいる限りどこにもたどり着けないということである。」

それでは、偶然を自分の人生に活かせるような人間になるためにはどんな心構えでいればよいのでしょうか？ 大学生活を送っていくうえで、最も大切なマインドセット、三つの心構えがあります。それは、「とにかく一歩前に踏み出す心（積極性）」と「わくわくする心（好奇心）」、そして三つ目が「失敗をおそれない心（冒険心、リスクテイキングの態度）」です。皆さんの周りには皆さんを飛躍的に成長させる機会が無数にあります。カリキュラムの中にも成蹊国際コースや丸の内ビジネス研修などの選抜制の特別プログラムがあり、また課外クラブ活動や海外留学、外国人留学生との交流、ボランティア活動、インターシップなど、みなさんが積極的にチャレンジするものは大学の内外に無数に存在しています。

いまの日本社会は失敗に対して不寛容であり、些細な失敗が強烈なバッシングを浴びることがよくありますが、大学というところは失敗が推奨されるところだと考えてください。誰でも初めて行うことは間違えるものであり、失敗をすることは一歩成功に近づいたと考えてください。どんどん失敗してください。一度や二度の失敗にめげずに積極的にチャレンジし続ければ、そのうちに絶好のチャンスに行き当たると思います。そして何よりも大事なことは、偶然に目の前に現れたチャンスを絶対に逃がさないような感度の高いアンテナを張っておくことであり、日ごろからそのための準備や努力を怠らないようにしておくことです。

みなさん、これからの大学生活の中に、自分の人生に大きな影響を与えるような新しい出会いや出来事が待っていると思うとわくわくしませんか。ぜひわくわくしながら学び、わくわくしながら大学生活をおくり、わくわくしながら卒業してください。この「わくわくする心」こそが人間の人生を幸福にする最強のエンジンなのです。

ここまで、大学生活を送るための三つの心構えについてお話ししてきました。皆さんが数年後に船出していく社会は決して安定した静かな海ではありません。しかし、だからこそ大学で学ぶ意義があります。私たちも、これからの成蹊大学の教育を懸命に創っていきます。変化の激しい不確実な社会に全力で立ち向かい、これからの皆さんの未来について本気で考えていきたいと思っています。ぜひ皆さんも私たちと一緒に未来を語り合いましょう。

最後に、数年後の卒業式の日、この場所で、激動の社会に立ち向かえるほどにたくましく成長したみなさんに再びお会いできることを心から楽しみにして、私からのお祝いの言葉を終えたいと思います。

ご入学本当におめでとうございます。

2018年4月4日

成蹊大学長 北川浩